

【奈良時代（約1300年前）】

- ① 軒丸瓦を含む古代の瓦が多数出土しました。このことから、調査地近くに古代寺院が存在したことがより確実になりました。
- ② 掘立柱建物跡が2棟見つかりました。北から約30°東に傾いた方位で建てられており、真北方位を指向する古代寺院とは異なる性格の施設と考えられます。



出土した古代の軒丸瓦

【鎌倉～室町時代（約800～500年前）】

溝の方位などから、2つの遺構群に分けられます。

A群

- ① 真北方位を主軸とする遺構で、1区で溝や四角形の掘り込みが見つかりました。
- ② 四角形の掘り込みは幅約13mあり、壁際には溝が掘られています。土器や瓦が出土しました。

B群

- ① 北から約10°東に傾いた方位を主軸とする遺構とその他の遺構群で、溝や土坑などが多数見つかりました。
- ② 溝からは、鎌倉～室町時代の土器や瓦が多量に出土しました。
- ③ 現在の報恩寺と同じ方位を指向することから、報恩寺に付属する施設と考えられます。

【江戸時代（約400～200年前）】

- ① 北から約10°東に傾いた方位を主軸とする遺構で、暗渠や井戸が見つかりました。
- ② 暗渠は旧地割に沿っており、土地の境界に設けられたと考えられます。

中世印南荘の中心的寺院

印南山 報恩寺

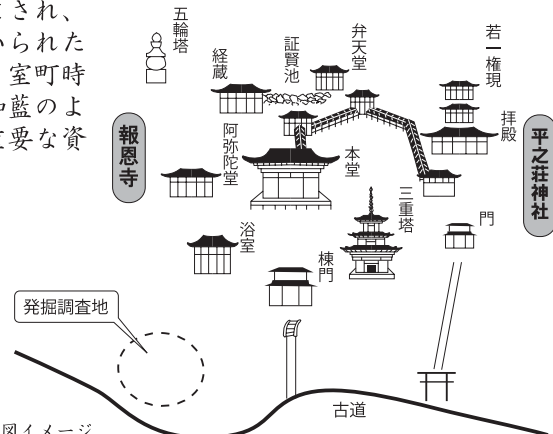
報恩寺は旧平荘小学校の北東側に隣接する高野山真言宗派の寺院として知られています。

建治元(1275)年に後宇多天皇の勅願により証賢上人が開創、あるいは中興したとされています。また、和銅6(713)年に開基したとの伝承もあり、古代山角廃寺との関連を考える上で、興味深いものです。

中世には『西大寺末寺帳』に記載される真言律宗寺院であり、中世文書を中心に貴重な古文書を多数所蔵しています。また、境内には十三重塔をはじめ、13～14世紀を中心とする石造物が多数所在する等、中世に寺勢を誇りました。

その後、永正2(1505)年の大火によって本堂を含めた大半の建物が焼失し、現在の本堂・鐘楼等は江戸時代に再建されました。

右絵図は焼失以前の旧伽藍を記したものとされ、勧進のために用いられたと考えられます。室町時代後期の報恩寺伽藍のようすを知る上で重要な資料です。



右図を元にした伽藍配置図イメージ



播州印南山報恩律寺七堂図（参詣曼荼羅図）

永禄十一年（1568）/ 報恩寺所蔵

加古川市総合文化センター 1996『信仰の美術』掲載、加古川市文化財調査研究センター提供

播州印南山報恩律寺七堂高永禄十一年二月十五日勸進道臣

やまかど はいじ

山角廃寺 発掘調査の成果

事業名：東播磨地域知的障害特別支援学校狭隘化対策事業

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部

調査期間：令和6年9月4日～令和7年3月10日（予定）

調査面積：2,304㎡

兵庫県教育委員会

(公財)兵庫県まち

づくり技術センター埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町 1-1-1

(兵庫県立考古博物館内)

URL:http://www.hyogo.ctc.or.jp



はじめに

山角廃寺は、加古川市平荘町山角に所在し、加古川西岸の氾濫原に面した段丘上に立地しています。今回、校舎新設に伴い発掘調査を実施しました。



1区と報恩寺（南西から）

山角廃寺と古代寺院

山角廃寺は、旧平荘小学校付近に所在したとされる古代の寺院跡です。これまで、小学校校庭に保存されてきた塔心礎と近くで出土したとされる数点の瓦から、その存在が想定されてきました。

加古川市域における古代寺院は、加古川西岸（印南郡）に所在する山角廃寺と中西廃寺（下図：C）の2寺と、加古川東岸（賀古郡）に所在する西条廃寺（A）、石守廃寺（B）、野口廃寺（D）の3寺がそれぞれ知られています。このうち、西条廃寺は発掘調査によって7世紀末に創建された市内最古の寺院跡ということが明らかとなり、古代の地方寺院の姿を知る上で貴重な遺跡として注目されています。



※国土地理院地図 Vector を元に作成

上図

奈良時代の遺跡（トーンあり）

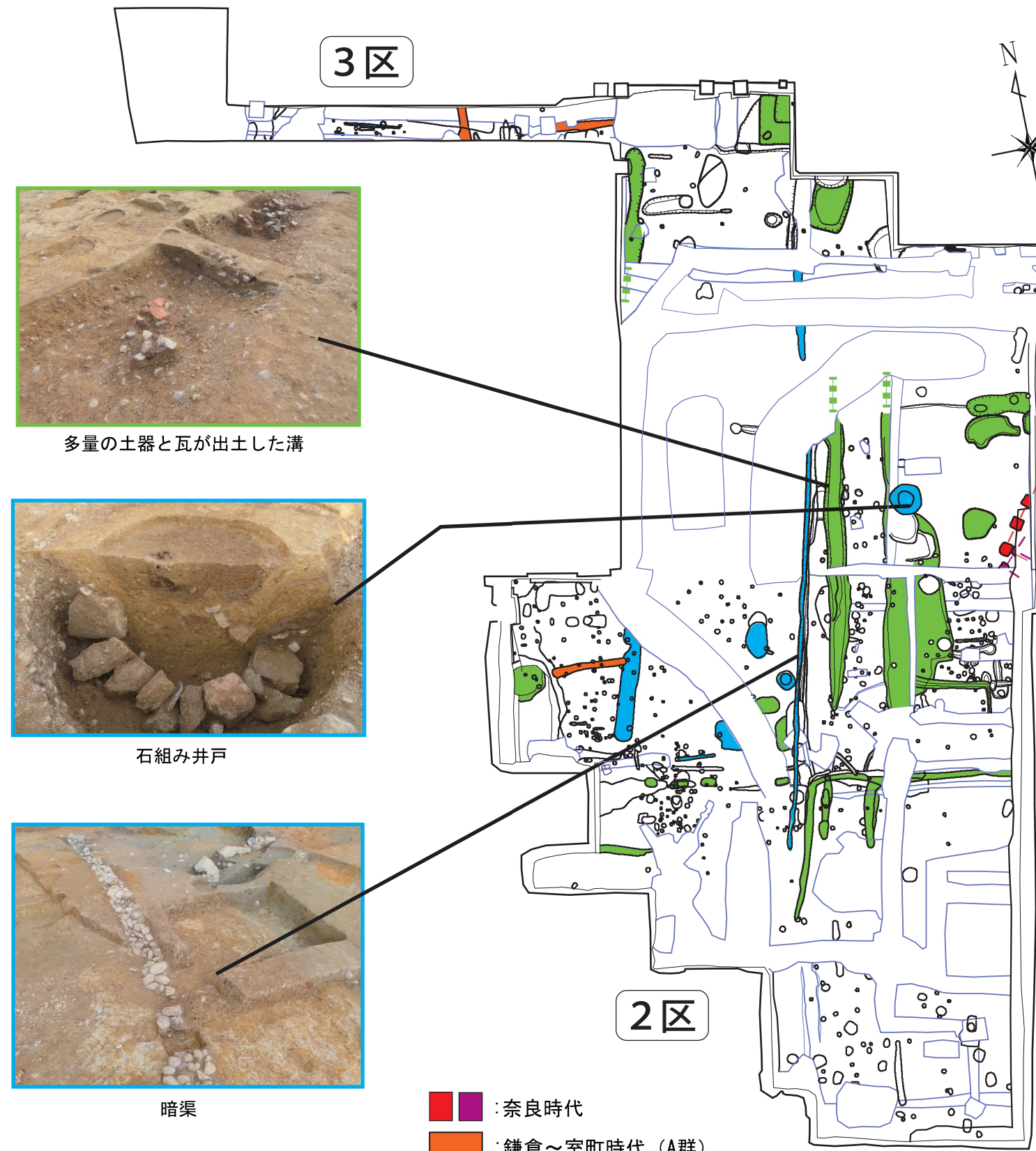
- 1: 山角廃寺 2: 神木遺跡 3: 峠上ノ池遺跡 4: 井ノ口遺跡 5: 宗佐遺跡
- 6: 下村遺跡 7: 宮山遺跡 8: 上村池遺跡 9: 西条廃寺 10: 神野遺跡

下図

- A: 西条廃寺 B: 石守廃寺 C: 中西廃寺 D: 野口廃寺 E: 賀古駅家（古大内遺跡）
- イ: 宗佐遺跡 口: 上村池遺跡 ハ: 溝之口遺跡 ニ: 坂元遺跡
- 推定古代山陽道

山角廃寺周辺の遺跡の分布





多量の土器と瓦が出土した溝



石組み井戸



暗渠



四角形の柱穴をもつ掘立柱建物跡



幅約2.5mの溝



四角形の掘り込み



調査区周辺の旧地割とその方位

